夏にきたえよ丈夫なからだ
伝染病の予防は手洗から
注意こそ伝染病の特効薬
きれいな水　きれいな食物　きれいな手

広報 あびこ

号　外
昭和 36 年 7 月 10 日 発行

発行所
千葉県東葛飾郡我孫子町役場
電話（あびこ）42・142・242
昭和34年7月30日第三種郵便物認可
（発行日　毎月1日・16日）

伝染病の予防対策本部を設置

―町民の健康保持に努力―

伝染病予防対策本部を我孫子町役場内に設置いたしました。すでに赤痢は十四名も発生し多発の恐れがあります。また、小児マヒ大流行のきざしもあるので、第二次緊急対策として生ワクチンの投与、蚊とハエの撲滅運動、環境衛生の向上等に万全の措置を計画し、町民の不安をやわらげ健康の保持につとめるよう努力いたしますので、町民の皆さまの格段のご協力を望むしだいです。

小児マヒ生ワクチンの投与実施

希望者は7月14日までに申込みを

ことしの夏は小児マヒ大流行のきざしを見せており、すでに東京都をはじめ全国各地において多発の傾向を示している現況です。

今夏の流行に対する第二次緊急対策として生ワクチンの使用が決定され、全国いっせいに実施されることになりました。

これにともない当町においても次の要領で生ワクチンの投与を実施しますから、希望者は七月十四日までに保健課または各支所に子どもさんの氏名、年令、住所および保護者の氏名を申し出てください。可愛いお子さまを悲惨な小児マヒから守るため、この機会にぜひ生ワクチンの投与を受けましょう。

◆無料投与を受られる人
生後三ヵ月から六才までの人は無料です。

◆有料投与　六才以上の人は有料投与で、料金は三十円です。ただし六才以上の方は、生ワクチンの数量の関係で投与できないこともありますので、事前に区役所で連絡します。

◆投与実施日時と場所
左表の通りです。

実施日	時間	場所
7月25日	午後3時までです	第2小学校
7月25日	午後1時30分から	第3小学校
7月26日		第1小学校
7月27日		湖北小学校
7月26日		第4小学校
7月27日		布佐小学校

◆その他　ソークワクチン接種済の方も投与を受けられます。

生ワクチンとは

正確には「弱毒性ポリオ・ビールス・ワクチン」といいこれは小児マヒの原因となるビールスの毒性を弱め、それを生きたまま口から飲んで免疫をつくるものです。つまり天然痘の予防に生きた牛痘ビールスを用いる「種痘」と同じ原理で、自染感染に似ているため、従来のソーク・ワクチンにくらべて、一回の投与で免疫効果が非常に高いものです。投与した場合の副作用については、きわめてまれな例ではありますが、四十八時以内に三七・五度から三九度くらいの発熱があったり、嘔気、嘔吐、下痢、発疹が出るなどの症状を起すことがありますが、いずれも四十八時間以内におさまり、今までの例ではこれが後まで影響したものはありません。

なお、次のような方は投与できませんので、当日会場で医師に申し出で意見をきいてください。

①発熱、下痢等急性疾患にかかっている方またはこれらの症状が消退後二週間以内にある方
②重症な結核、心臓血管系疾患にかかっている方
③病後の衰弱がひどい方
④いちじるしい栄養障害者
⑤一週間以内に他の予防接種（ソークワクチンは関係ありません）を行なった方、また過去四週間以内に予防（とくに扁桃腺）または抜歯等を行なった方

投与日の入浴、食事には制限の必要はありませんが投与後異常な徴候のある場合はすみやかに医師に診察を受けてください。

なお、この生ワクチンは現在小児マヒの潜伏期にある人の発病を阻止することはできません。

環境衛生の向上について

環境衛生の一環として、町では年四回防疫薬剤の撒布を致しており、ハエ、蚊、油虫（ゴキブリ）等の撲滅について努力して居りますが、本年も既に十四名の赤痢保菌者が発生致しました。これら赤痢菌や小児マヒウイルスを媒介する昆虫を駆除するために、発生地に対しては定期外に防疫薬剤を撒布致しましたが、発生源の対策について皆様方につぎの点についてご注意下さるようお願い致します。

一、家の周辺を清潔にし、水溜り等をなくして、蚊の発生を未然に防ぎましょう。

二、蛆の発生する場所（便所、ごみ箱、畜舎等）には殺蛆剤を撒布してください。

三、常に室内を掃除して、日光を入れ消毒、殺菌する。

四、ごみをところかまわず捨てたり、道にたんをはいたりすることは伝染病を助長します。

五、食品の残物を室内に放置しないよう心掛けてください。

夏の健康を守りましょう

伝染病の症状と予防方法

夏い多い病気とくに赤痢、疫痢、日本脳炎、急性灰白髄炎（小児マヒ）および食中毒等が発生、流行する季節となりました。

この予防対策の一環として「夏の健康を守る運動」が全国的に展開されています。これらの病気を防ぐには、私たちひとりひとりが、正しい知識を身をつけて守ることが一番大切であり、この運動も町民各自の理解なくしてその目的達成はできませんので、次のことがらをよく守りこの運動にご協力ください。

赤痢（疫痢を含む）

赤痢、疫痢の発生は昭和三十一年の全国統計二、八七五名を最高とし、最近漸次減の傾向にあります。それでもまだ二、〇〇〇名近い患者の発生を見ております。また実際にはこの患者以外に、注意を要する保菌者が何倍というほどいます。

町では本年度、食品衛生業者の検便を実施した結果、各地区に赤痢保菌者が発見されたので、その家族および近隣者の検便を行なったところ、発病した者を含めて保菌者が七月六日現在十四名発見されました。これを地区別にみてみますと我孫子三名、湖北三名、布佐八名となっております。これは、五十五名も発生した昨年の今ごろでも保菌者一名が発見されただけなので、ことしの赤痢発生数は相当多くなると考えられます。

保菌者は下痢、腹痛その他何等の自覚症状がなく、体内に赤痢菌がいて便のなかに菌を出している者で、患者と同様に危険なものです。

赤痢の伝染経路

赤痢は赤痢菌によっておこる伝染病で、この菌は患者や保菌者の腸の中にいて便とともに排せつされ、いろいろな経路をたどって食べものなどといっしょに口に入って発病するものです。

赤痢の症状

潜伏期間は二日から七日ぐらいで、そのおもな症状は次のようなものです。

①下痢が主症状で、軽症にあっては無熱、単なる腸炎と誤るような下痢のこともしばしばあります。
②典型的な赤痢では一日十数回におよぶ下痢で、粘液、膿、血液を混ずる。血液は線状あるいは点状に混じていたり一様に混じ桃色便を呈し不快感な嗅がある。
③腹痛を伴う。
④熱は必発とは限らない。

疫痢の症状

幼児が細菌性赤痢にかかりその中毒症状がはげしく、嘔吐、痙れん、意識不明等の脳症状を呈する場合とくに疫痢と名付けています。疫痢にかかると、発病後数時間で死亡する場合がありますからとくに早期発見と早期治療が必要です。

予防方法

①よく手を洗うこと。とくに用便後、調理前、食事前。
②生水、なま物に気をつける事。煮たものは焼いたものを食べること。
③暴飲、暴食をつつしむこと。
④発熱、腹痛、下痢の症状があるときは、早く医師の診断を受けること。
⑤しろうと療法はさけること。

急性灰白髄炎（小児マヒ）

小児に多く発生し最初軽い発熱、頭痛および胃腸障害をもってはじまり、しだいにいい部ならびに背髄の強直を起こし、マヒ症状をきたします。ただし、このような症状は、時としてあらわさない場合もあります。また、マヒが急激に起こり、明瞭な症状を起こさないうちに呼吸停止のため短時日に死ぬことがあります。この病気はなおっても歩行困難、その他不自由な後遺症状を起こす恐ろしく悲惨な病気です。

伝染経路

この病気はウイルスと称する病原体で、人鼻および口から浸入するものであり、患者または保菌者の鼻汁、咽喉部の分泌物およびふん便等によって伝播されるものといわれています。

日本脳炎

毎年暑くなると、きっと日本脳炎の流行が人々の話題にのぼってきます。日本脳炎はわが国特有の脳炎で、年間約二、〇〇〇名以上の患者が発生し、本年も小児マヒと同様に多発することが予想されています。患者の大部分は子供で、致命率も二〇％以上という恐ろしい病気です。

伝染経路

日本脳炎の病原体はウイルスで、蚊によって媒介されます。

予防方法

①蚊の徹底駆除と発生防止につとめること。
②子供の暑い日中、帽子もかぶむらずに炎天を歩いたり、不摂生や過労などすると体に抵抗力がなくなり、発病の誘因となるのでとくに注意すること。
③予防接種を受けること。
④この病気は普通高熱が続き頭痛、はきけを催し、しだいに脳をおかされ、意識もうすれ、眠り続けるのが特徴で、重い人は後で手足がきかなくなったり、ことばが不自由になったり、白痴や低能になることもある病気ですので、しろうと療法は絶対にさけ、早く医師の診断を受けて適切な治療をすることが必要です。

食中毒

これから気温や湿度が高くなるにつれて食べものは腐りやすくなり、伝染病とともに食中毒の発生が多くなる季節です。一昨年、県下で発生した食中毒は二十三件で、患者数は七四〇名にたっしています。

普通、食中毒は腐敗型、変敗型、毒素型および伝染型等にわけられていますが、一般的におこる食中毒に、ブドウ状球菌によるものとサルモネラ菌によるものとに大別されています。

①ブドウ状球菌によっておこる食中毒は、菌が食べ物に附着し、そこで繁殖してできた有毒物質を食べることによっておこるものでありますが、この中毒は潜伏期間が短かく、二時間ぐらいではきけ、腹痛、下痢等をおこすのが特徴です。この中毒の原因となる食べものは、かまぼこ、さつまあげ、用えび、ちくわ、ゆであづき、シュークリーム等ですから注意を要します。とくにこの中毒は、調理人の手指等におできなどの化膿菌などが附着し、食べものに入っておこることが多い。

②サルモネラ菌によっておこる中毒はねずみ、ハエ、油虫等により食べものに菌が附着しておこるものです。この中毒は潜伏期間が長く、二十時間ぐらい経過して発病し、はきけとともに寒けがして高熱を出します。下痢は激しいときと軽いときがあり、中には中毒症状が重く脳症をおこし、意識がなくなり、ときには死亡することもあります。

予防方法

①食べものは新鮮なものを食べ、腐りかけたものは食べないようにすること。
②生食はさけ、特に折詰物には注意すること。
③食べ物は涼しいところにおくか、または冷蔵庫に入れて保管すること。
④ねずみ、ハエ、油虫等の徹底駆除を行なうこと。
⑤中毒発生の場合は、早く最よりの保健所へ届け出ること。